

【化学物質・汚染物質】

評価結果	リスク管理措置の実施状況調査実施時点と対応状況（記号については欄外参照）					
通知時期	平成26年9月末	平成27年9月末	平成28年9月末	平成29年9月末	平成30年9月末	平成31年9月末
平成25年度	A					

A: リスク管理措置を講じたもの A': 一部措置済み B: 審議会等から答申 C: 消費者庁との協議終了
 D: 消費者庁と協議中 E: 審議会等において審議中 F: 審議会等の準備中 G: その他

リスク評価の結果に基づく施策の実施状況調査シート

評価品目名	食品中のヒ素
評価品目の分類	化学物質・汚染物質等
用途	—
評価要請機関	食品安全委員会が自ら行った食品健康影響評価
評価結果通知先	農林水産省
評価要請日等	—
評価要請の根拠規定	—
評価目的	食品中のヒ素の食品健康影響評価
評価目的の具体的内容	—
評価結果の概要	<p>無機ヒ素曝露により、ヒトにおいて発がん（肺癌、膀胱癌等）が認められ、また染色体異常等の遺伝毒性がみられているが、現在得られている知見からは、ヒ素の直接的な DNA への影響の有無について判断することはできない。また、ヒ素による発がんメカニズムについて、現時点においては知見が不足しており、発がん曝露量における閾値の有無について判断できる状況にないと判断した。</p> <p><評価書「食品健康影響評価」抄> [まとめ及び今後の課題] 今後、曝露量評価や用量反応データを裏付けるための、我が国における曝露実態及び食事由来のヒ素曝露を明らかにした上で、通常の生活での曝露レベルの集団を対象とした疫学調査及び毒性メカニズムに関する研究が必要である。また、有機ヒ素については、食品健康影響評価に資する有機ヒ素に関する毒性学的な影響に係るデータが不足していることから、更なるデータの蓄積が必要である。</p> <p>(平成 25 年 12 月 16 日府食第 1004 号)</p>
関係行政機関における施策の実施状況	
施策の検討経過	<p>【農産物】 平成15年度～、国産農産物中のヒ素の含有実態調査を実施。 平成23、24年度 コメ中無機ヒ素濃度の分析法に関する試験室間妥当性確認試験を実施。 平成24、25年度 加工・調理・保存過程におけるコメ中ヒ素の分子種別濃度の動態解析を実施。 平成25年度～、水稻におけるヒ素のリスクを低減する栽培管理技術の開発に関する委託プロジェクト研究を実施中。 平成26年度～、リスク管理措置を検討する上での基礎データとなる国内の水田土壌及びそこで生産された米に含まれるヒ素の含有実態調査を実施中。</p> <p>【水産物】 平成26年度、乾燥ヒジキのより適切な水戻し方法を検討するため調査を実施中。</p>
リスク管理措置の実施に時間を要している理由	
施策の概要等	<p>【水産物】 (施策の概要) 平成26年6月、ヒジキの製造・加工事業者等に対して、乾燥ヒジキの水戻し等によるヒ素低減</p>

	<p>の取組の実施について周知。</p> <p>【リスク評価結果との関係】</p> <p>データが不足しており毒性評価等ができないと結論されたが、より一層安全性を向上させるため、既存の知見（乾燥ヒジキのヒ素は水戻し等により低減される）を活用して、リスク低減のための施策を実施。</p>
施策の実効性確保措置	<p>【水産物】</p> <p>リーフレットを作成し、ヒジキの製造・加工事業者に配布。（農水省ウェブサイトにも掲載。）</p>
その他特記事項	